

ここちゃんと防災



今月のテーマ

「大雨への備え」

2022年6月 vol.8

作：工藤 美佐(防災士)

～ “ここ” から “ちゃんと” そなえよう～

気候変動や異常気象によって、いまや身近となっている自然災害。皆様のご自宅や職場は安全ですか？ わが家の備えは万全ですか？災害に備えるには、**住んでいる地域でどのような災害が起こりやすく、どのような被害を受ける可能性があるのかを把握**することが大切です。川が増水しやすい梅雨の時期を前に、今月は「ハザードマップ」を通して、わが家の防災意識や備えを一緒に見直していきましょう。

1 ハザードマップとは

過去の災害などから被害を予測して、災害の危険性を色分けして表示している地図です。

大雨、台風、地震などの災害が起こったときに、浸水やがけ崩れなどの危険があるところや、危険が迫ったときの避難経路や避難場所などが載っています。

国土交通省や都道府県が想定しうる最大規模の降雨と、浸水想定区域を作成し、それに各市区町村などの自治体が、自分達の区域の細かい浸水履歴などからアレンジして作成しています。その地域の特性に応じた災害の種類ごとにあるのが特徴です。洪水・高潮・土砂災害・ゆれやすさ(地震)・ため池・津波等のハザードマップがあります。

2 ハザードマップの入手方法

ハザードマップは、自分の住んでいる市区町村役場などでもらうことが可能です。(市役所や支所で入手できます)

また、市区町村のホームページからダウンロードでき、国土交通省のハザードマップポータルサイトなどで確認することもできます。

ハザードマップポータルサイトはこちら♪



3 ハザードマップの活用方法

自分の住む場所を知ることが大切です。まちにはどんな危険がありますか？

安全な帰宅ルート、災害時の家族の集まる場所はどこでしょうか？避難所の場所、避難所までの安全な道はどこでしょうか？

家を建てる時や引越す時の参考にもなりますね。

4 避難とは「難を避けること」

⇒安全を確保すること
⇒危険な場所から逃げること

ご高齢の方や妊婦さん、小さなお子様がいるご家庭やケガをしている方など避難に時間がかかる方は警戒レベル3で避難です。

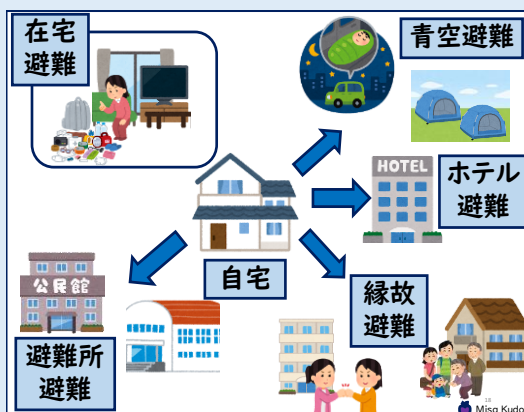
早めの避難であれば、車での避難も可能です。明るうちの避難が安心・安全です。

警戒レベル	新たな避難情報等
5	緊急安全確保 せんせいあんぜんかくほ
4	避難指示 ひなんじし
3	高齢者等避難 こうれいしゃとうひなん
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)

5 分散避難のススメ

災害時には、公的な避難所に行くことだけが避難ではありません。親戚や知人宅、ホテルへの避難も選択肢となります。

いくつかの選択肢があると安心ですね。



自宅が頑丈な建物の高層階にある場合や危険な区域でないなど、安全が確保されている場合は**自宅に留まる在宅避難**も可能です。

今日からできる1UP 防災

① お家の中の安全チェック

- 👉 どんなどころで寝ていますか？
- 👉 一番安全な場所はどこですか？

② 避難所までお散歩してみましょう

- 👉 車や自転車とは違う発見が!!
- 👉 避難にも体力が必要です (歩くことは体力づくりにもなります♪)

③ 家族会議をしておきましょう

- 👉 家のどこが安全ですか？
- 👉 いつどこに避難しますか？

